

静岡鏡台の復刻プロジェクトの考察

戦時下日本の実用家具のデザインと技術の特質解明・鏡台編 (4)

A Study of the Shizuoka Dressing Table Reproduction Project:

Clarification of Characteristics of Design and Technology of Utility Furniture in Wartime Japan: Dressing Table (4)

谷本尚子¹⁾

Tanimoto Naoko¹⁾

新井竜治²⁾

Arai Ryuji²⁾

益岡 了³⁾

Masuoka Ryo³⁾

古賀信也⁴⁾

Koga Shinya⁴⁾

1) 京都精華大学デザイン学部 2) 九州大学総合研究博物館

3) 大阪工業大学 R&D 工学部 4) 九州大学大学院農学研究院

Abstract : This study examines the production techniques of Shizuoka dressing tables through a survey of reproduced historical pieces housed at Twin Messe Shizuoka. Fourteen items were measured, and eight were documented in drawings. The reproductions, produced between 1999 and 2000, involved specialized division of labor. Interviews indicate that visual

similarity in color was prioritized over strict replication of wood species. Comparison with pieces exhibited in 1996 reveals correspondences between several reproductions and their original models, clarifying aspects of reproduction practices.

Key Word : Shizuoka Dressing Table, Historical Furniture, Reproduction

1. はじめに：目的・方法・背景

本研究の目的は、ツインメッセ静岡に収蔵されている歴史的静岡鏡台の復刻版について実測調査を行い、その報告とともに、静岡鏡台における生産技術の特質を明らかにすることである。調査は、2025年5月28日新井・益岡・谷本の3名により第1回を実施し、8月18日及び19日には、樹種同定を担当する古賀及び製図を担当する原野智(大阪工業大学)を加えた計5名で実施した[注1]。実測したのは14台であり、そのうち本稿では大正・昭和期の8台を図面化した成果を扱う(図1・図2)。

2. 歴史鏡台の複製製作の概要

ツインメッセ静岡に収蔵されている歴史的鏡台の復刻版作成プロジェクトは、1999年から2000年にかけて実施された[注2]。このプロジェクトは、製造工程全体を静岡鏡台生産協同組合に発注して行われたものである。複製にあたっては、木工指物職人、塗装業者、鏡業者といった各工程ごとに分業がなされている。なお当時の製作者に関係する人物への聞き取りによれば、木材については見本と同様の色調で再現することが重視され、樹種そのものを厳密に再現したわけではないことが確認された[注3]。

3. 1996年「静岡産地の歴史展」出品作品と比較して

本稿では新井による先行発表[注4]を踏まえ、複製された鏡台の原型を推定する(以下、新井の発表における表1を〈A表1〉と記す)。No.1の鏡台は〈A表1〉のNo.11(太田長

所蔵)と形状・寸法ともほぼ一致する。No.2は〈A表1〉のNo.18、No.5は〈A表1〉のNo.20、No.6は〈A表1〉のNo.9と、それぞれ形状および裝飾彫刻を含め高い一致を示す。蒔絵の意匠に差異が認められるものの、No.7は〈A表1〉のNo.22、No.8は〈A表1〉のNo.21と形状および寸法において概ね一致している。

4. おわりに

本稿で行なった原型との比較により、すべての個体を同定するには至らなかったものの、1996年に展示された歴史的鏡台と1999年に実施された復刻版との関連について、その具体的な関連性の一端を明らかにすることができた。

注及び参考文献

- 2025年11月に古賀と新井による樹種同定を行う。
- 元静岡市産業振興課頭師雅之氏への聞き取り調査5/28、8/18、8/19、(2026.4/1)。および備品票に記載された取得年月日による。
- 駿河区福井木工所代表・福井英之氏への電話による聞き取り調査。2025年8月20日。
- 新井竜治・他：1996「静岡産地の歴史展」出品のオリジナル鏡台と復刻鏡台との関係、日本デザイン学会研究発表大会概要集、2026

謝辞 本研究はJDPS 科研費24K03223の助成を受けた。静岡県家具工業組合大坪正典氏、元静岡市産業振興課の頭師雅之氏の調査におけるご配慮に感謝する。

表1：製図作成鏡台リスト

番号	整理番号	形式	時代	幅 x 高さ x 奥行	木工職人	素材
1	166740	座鏡台・前柵	大正	408x716x215	不明	本体(ニレ属)・鏡裏(針葉樹)・棚板(杉)・抽斗前板(ニレ属)・抽斗底板・側板・先板(桐)
2	166749	座鏡台・総柵	大正(昭和初期)	342x545x194	小倉健作	本体(トネリコ属)・本体箱裏(ニレ属)・底板(杉)(抽斗未確認)
3	166750	座鏡台・前柵	昭和(大正)	362x662x219	鈴木秀勝	鏡裏(針葉樹)鏡枠(広葉樹散孔材)・鏡束(樺)・抽斗前板(杉・樺)・棚板(スギ)・抽斗前板(樺)・抽斗底板・側板・先板(桐)
4	166751	座鏡台・前柵	大正(昭和初期)	422x824x230	佐藤久吉	甲板(ニレ属)・抽斗前板(トネリコ属)・側板(トネリコ属)脚・脚幕板(ニレ属)・底板(杉)抽斗前板(トネリコ属)・抽斗前板底板・側板・先板(桐)
5	166752	座鏡台・総柵	大正(昭和初期)	430x860x257	佐藤久吉	本体前(トネリコ属)・本体小口(ニレ属)・鏡裏(トネリコ属)・鏡柱(ニレ属)・鏡枠(トネリコ属)・脚(ニレ属)・棚板(杉)・抽斗底板・側板・先板(桐)底板(杉)
6	166753	両山座鏡台・前柵	昭和(大正)	489x1107x257	小倉健作	本体(ニレ属)・小口(トネリコ属)・抽斗前板飾り板(トネリコ属)・抽斗前板(ニレ属)・棚板(杉)・底板(ニレ属)・脚(ニレ属)・抽斗底板・側板・先板(桐)底板(杉)
7	166754	座鏡台 一面総漆塗	昭和	559x1147x274	不明	本体(広葉樹散孔材)抽斗底板・側板・先板(桐)
8	166755	両山座鏡台三面総漆塗	昭和	668x1193x315	不明	本体(広葉樹散孔材)・棚板(松属)・側板(ニレ属)・抽斗前板(不明)・抽斗底板・側板・先板(桐)

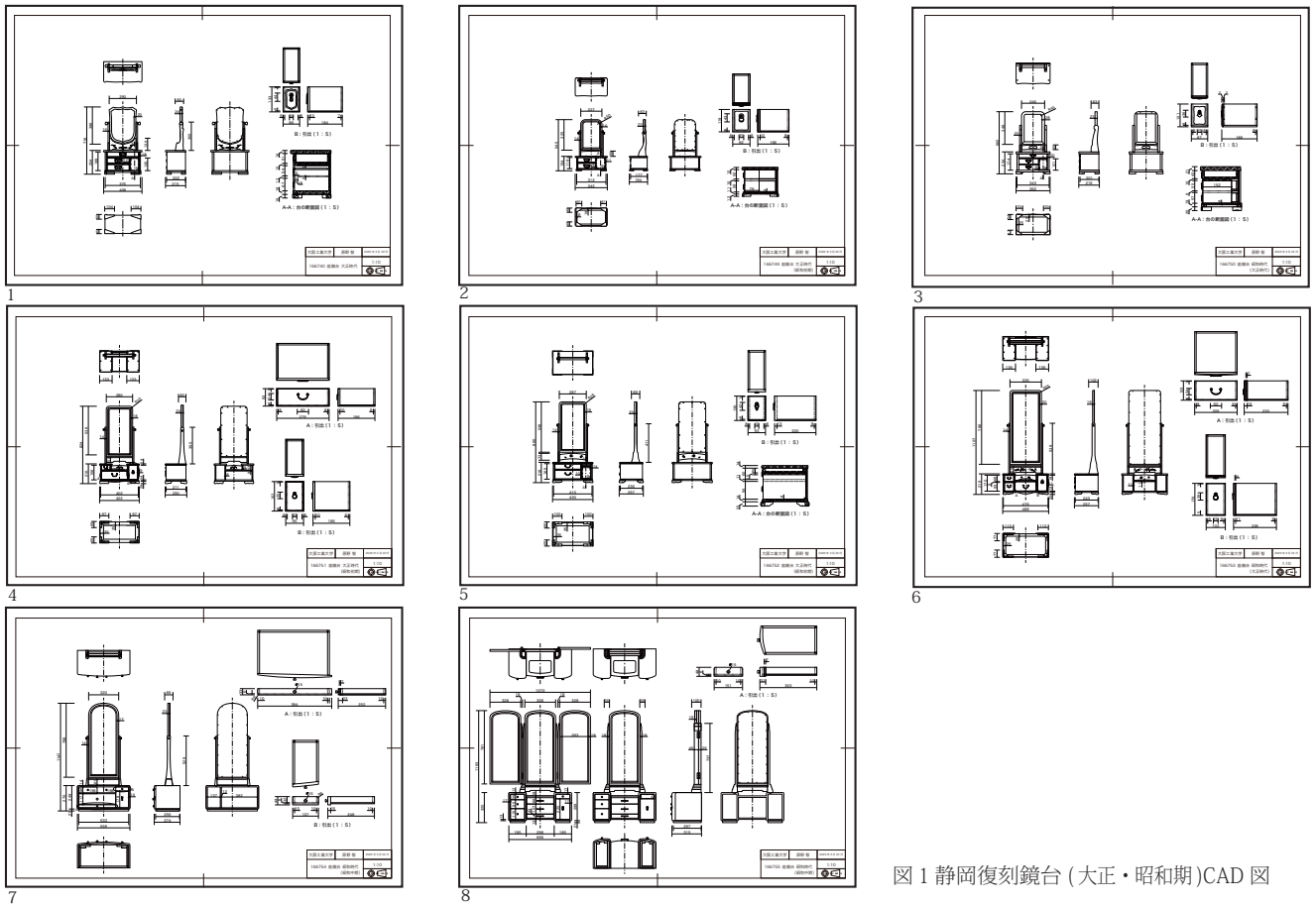


図1 静岡復刻鏡台(大正・昭和期)CAD図



図2 静岡復刻鏡台(大正・昭和期)画像配置図